



令和5年度 福島県立須賀川支援学校本校 学校経営・運営ビジョン 中間評価

A：達成できている
 B：ほぼ達成できている
 C：あまり達成できていない
 -：アンケート対象者なし

校訓

健康・友愛・感謝

教育目標

- 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
- 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

学校像

- ・ みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
- ・ 将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
- ・ 地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

児童生徒像

- ・ 明るく 強く 生きる人
- ・ 自ら学び 考える人
- ・ 心豊かで 思いやりのある人

教員像

- ・ 子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
- ・ 指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
- ・ 強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

< 今年度の努力目標 >

児童生徒の生涯を通じたよりよい生活の実現に向けて、一人一人の病状や障がいの状態及び特性等に応じた指導の一層の充実を図ることができるよう、年間指導計画や個別の指導計画等の効果的な活用を通して、指導と評価の一体化に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。

小学部

- スタッフ会や授業者間での話し合いを通して、児童の実態や課題、学習評価を共有し、支援に当たっている。
- グループ研修において作成した課題関連図を踏まえて個別の指導計画の目標・内容を見直し、授業を実践している。

中学部

- スタッフ会やグループ研修会などを通して、生徒の実態や中心的課題を改めて多面的に捉え直し、それらを共有した指導・支援に当たっている。
- より実用的な年間指導計画と個別の指導計画の様式案を作成し、実際に入力しながら活用方法も含めた検討を重ねている。

高等部

- 学部会、学年会及びスタッフ会等の場を活用し、指導・支援に必要な情報について適宜、情報を共有することができた。
- 主に校内研修を通して、自立活動の流れ図の必要性や活用の方法等について確認することで、自立活動の充実に向けている。



健康

体

明るく 強く 生きる人

病気を理解し、健やかな体の育成をめざします

- 健康・安全生活の充実

小:-	中:A	高:B	教:A
-----	-----	-----	-----
- 体育・健康に関する指導の充実

小:-	中:A	高:B	教:A
-----	-----	-----	-----

友愛

知

自ら学び 考える人

教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします

- 学力の向上

小:-	中:B	高:B	教:A
-----	-----	-----	-----
- 病弱教育の専門性の向上

教:B

感謝

徳

心豊かで 思いやりのある人

豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします

- キャリア教育の充実

小:-	中:A	高:B	教:A
-----	-----	-----	-----
- 道徳教育や交流及び共同学習の充実

小:-	中:A	高:B	教:B
-----	-----	-----	-----

各種計画 目標

学部目標・学級目標

保健部

学校保健委員会

- 「良い歯の表彰式」や「食育講話」を実施し、歯と口の健康やおなかの健康、生活リズムについて学び、健康への意識を高めることができた。
- 「性に関する指導研修会」を実施し、事例を基に具体的な支援や指導について意見交換をすることができた。
- 校内環境の整備では、各校舎でそれぞれ物品の管理を行っている。引き続き感染症対策をしながら、校内環境の整備に努める。

生徒指導部

- 「交通安全教室」を実施し、興味関心をもって交通ルールや自転車の運転に関する知識を深めることができた。集会で交通事故や声掛け事案等が発生した場合の対処法を学び、防犯意識を高めることができた。
- 「携帯安全教室」を実施し、ネット上での円滑なコミュニケーションに必要な要素や注意点について理解を深めることができた。引き続き、保護者への啓発等を行いつつ、情報モラル教育の充実に向けていく。

教務部

- 自立活動の流れ図について、小・中学部（校舎）、小・中・高等部（校舎）で児童生徒一人一人に対して作成・活用している。高等部（校舎）は次年度より作成する予定である。
- 自立活動の流れ図の作成により、病状の状態や障がい特性、発達の段階など、児童生徒一人一人の実態と課題をより的確に把握することができるようになり、実態に基づく授業づくりにつながった。

研修部

- 自立活動の流れ図を用いて、グループ研修毎に細かい実態把握と課題の整理を行うことで、日々の授業実践に生かされている。
- 講師を招聘した研修会を実施した。全国の流れや国の方針等を確認し、日々の授業実践につなげることができた。

情報教育部

- AAC（補助代替コミュニケーション）やAT（アシスティブテクノロジー）の考え方を全教員に周知するとともに、児童生徒の情報化社会への対応や情報活用能力、情報モラルの育成を引き続き目指していく。
- 引き続きICT機器の利活用を通して、多様な学びや深い学び合いの実現、継続した学習環境の設定に努めていく。

小学部

- 阿武隈小特別支援学級との交流では、作品等の間接交流だけでなく、代表児童が相手校に行き、ゲームなどの直接交流を行うことができた。
- 須賀川駅・駅周辺の施設の見学及び利用する校外学習や、わかき学級の6年児童におけるポストや自動販売機を実際に利用する学習などを通して、地域の様子や公共機関について知るとともに経験を拡げることができた。

中学部

- 進路相談を重ね、進路希望先の見学や授業体験を、一人一人のニーズに応じて行うことができた。
- 高齢者施設訪問は、リモートではなく直接会ってかかわることができた。自分から話し掛けたり、相手を思いやった手紙を書いたりするなど、主体的活動となった。

高等部

- 学校職場見学会では、進路希望を基に見学先を設定したことで、将来を見据えた充実した見学会となった。
- 校外の様々な作品展に出展し、作品を通して地域の方と交流することができた。

進路指導部

- 初めての実習の生徒は特に不安が先行したが、事前の準備を丁寧に行ったり実際に体験したりすることで、やりがいや自己課題に気付くことができた生徒が多かった。
- 「福祉相談会」「職業相談会」により知り得た進路に関する情報を、進路実現に向けて活用できるように促していく。

入学

転入出

卒業

小学部

中学部

高等部

地域支援センター

センター的機能の充実 ～ 地域のニーズに応じた相談・支援の充実をめざします ～

- 【相談・研修】・（8月末）来校相談件数：25件 出かける相談支援：23件 研修支援：3件
・ 特別支援教育アドバイザーを中心に個別的教育支援計画を作成、活用しながら、継続的な支援を行った。
- 【児童思春期病棟入院児童生徒支援】・事業対象児童生徒7名【うち退院児童生徒3名】在籍校訪問3校、ケース会議を3回実施した。入院児童生徒支援員が、ふくしま医療センターこころの杜に週2回訪問し、医師やスタッフと連携しながら在籍校や関係機関と連携を図り、学習支援や退院後のフォローアップを実施した。
- 【特別支援教育研修会】・須賀川市民文化センターで実施した。計180人の参加となった。